

## 医療費等適正化検討部会会議（要旨）

1. 日時 平成 23 年 1 月 24 日（月）午後 2 時から
2. 場所 生駒市コミュニティセンター 301 会議室
3. 出席者  
（委員）  
伊木雅之、関本美穂、萩原洋司、安井健一、安部哲史、安井健二  
（オブザーバー）  
奈良県健康福祉部保健指導課 八木課長補佐  
（事務局）  
池田福祉健康部長、松本国保年金課長、尾山健康課長、田中国保年金課課長補佐、  
近藤健康係長、小林国保係長、田中国保係員
4. 議事内容
  - (1) 開会
  - (2) 部会長挨拶
  - (3) 審議案件  
案件 1 前回議事録の確認について  
案件 2 生駒市医療費等適正化検討部会提言について
  - (4) その他
  - (5) 閉会
5. 審議案件  
案件 1 前回議事録の確認について  
特に審議なし  
  
案件 2 生駒市医療費等適正化検討部会提言について  
【事務局】 資料「生駒市の医療費等の適正化に向けた提言（修正案）」の説明  
【部会長】 前は骨子の議論が中心になっていたが、その後事務局にて修正を加えてもらった。  
【委員】 2 ページの内容分析と 3 ページのレセ点検を違うものとして分ける必要があるのか。  
【部会長】 レセ点検は従来からやっている診療に対する点検であり、内容分析は新たな内容の分析になるので分けておいたほうがいい。  
【部会長】 生駒市における糖尿病等の平均医療費をホームページに掲載するのはどうか。それを見れば、自分の医療費が平均より高ければ病院で原因を確認したり、

できるだけ医療費を抑制しようとする。医療機関毎の平均医療費についても自分がかかっている病院がどのくらいの水準にあるのかを気にすることで効果があると思われる。

【委員】 病院の過剰医療や市民の過剰受診を分析・抑制することを目的としてレセを解析していくための予算を確保していくという内容を明記するべきであると思う。

【部会長】 専門家が意見をいう場を今後も提供するという意味で、アドバイザーボード（専門委員会）を継続的に設置するというのはいいのではないか。

【委員】 レセ点検をスクリーニング（選別）するというのは連合会の審査のあと、再度市が点検するということか。

【委員】 被用者保険では診療報酬支払基金が一次審査、保険者が二次審査を実施しているが、同じ内容を本市も実施するということである。

【委員】 保険者として生駒市が責任を果たすことになる。

【部会長】 アメリカでは民間保険に加入しているため、保険適用できる範囲については厳しく点検される。請求の内容については日本でもだんだん厳しくなっている。

【事務局】 柔道整復に対する審査点検の外部委託については、来年度予算を確保し、着手していきたい。ジェネリック医薬品の差額通知についても来年度予算計上していきたい。直ちに実施できることはできるだけ早く実行していこうと考えている。

【委員】 提言した結果をフィードバックしてほしい。

【事務局】 国民健康保険運営協議会で必要な事項があれば全部提言や意見をもらっており、国保の運営についてはすべて協議してもらっている。

【委員】 その運営協議会をもっと機能化できないのか。

【委員】 こういうことを研究するには人数がおおすぎる。データを持ち上げて運営協議会で意思決定するというほうがいいと思う。

【事務局】 この部会の発足の主旨は市長から直接指示があったので、100%とは言えませんがこの提言を尊重して実施していくということになる。

【部会長】 部会長が、提言内容を運営協議会で説明をし、委員の承諾を得て市長が決定するという方法ということですね。

【委員】 10年前から調剤費が3倍に増大していると書かれているが、院外処方の医療機関が増えているため、医療機関における薬剤費が減っているのだから大きな差はない。

【副部会長】 院外処方が増えているので、処方薬局にジェネリック医薬品を推進するというのは効果があると思われる。

【部会長】 保健事業についての議論をお願いしたい。

- 【委員】 特定健診の検査項目に随時血糖を追加することは決定か。
- 【事務局】 県からの報告では最終方針として決まったようである。
- 【部会長】 脳ドックは「賛否がわかれる」という文言になっている。
- 【委員】 乳幼児健診は非常に内容が厳しい。この内容であれば脳ドック以上に見直しを実施するという内容である。結論はおのずから国の実施要領どおりということになるのではないか。
- 【部会長】 健診を 6 回実施するということが問題ではなく、健診結果を活用することが重要である。データベース化して解析し、その結果を利用して乳幼児施策を検討するとともに、医師会にその内容をフィードバックしなければならない。人間的な要因等でそれができない状況であれば健診回数を減らすことも必要である。アドバイスをしてくれるような専門家や委員会を設置するというのも効果があるのではないか。
- 【委員】 健診や予防接種においても小児科医と市が連携をして、データの保管・管理を行い、子どもたちをどう育てていくかについて一緒に考えていかなければならない。健診回数を減らすが別にこういう方法でフォローしていくというように説明しないとなかなか理解が得られないのではないか。
- 【委員】 既に実施している制度を変える場合は広く周知してから実施してほしい。
- 【部会長】 広報紙に掲載するだけでなく、該当者への個別通知で変更内容を周知することが必要である。もっと細かい配慮をお願いしたい。
- 【委員】 骨子に「自治会に働きかけ・・・」といった文言を追加してほしい。特定健診の受診率アップや重複受診の抑制についても自治会というチャネルを活用することが大切である。
- 【部会長】 自治会の中に検討部会を設置して推奨していくというのはいいアイデアだと思われる。他分野においても検討部会や自治会を活用していくことが重要であるのではないか。
- 【事務局】 医療費については、副部会長に指導をいただいて分析していきたいと考えている。
- 【副部会長】 レセ解析を継続して実施すると、市民及び市、医療機関に効果のある情報を提供できるのではないか。生駒市は保険者として自治体の中で実施する医療行為について責任を持ち、可能な限り少ない医療費で効果をあげることが求められていく。解析結果をどのように活用するかを決定した後に、データの限界をふまえてどのデータを利用するかを慎重に検討する必要がある。医療費や健康に対して興味のある人が大まかな情報を得られるようにホームページに生駒市の医療費というページを作ってはどうか。生駒市の医療費がどのように使われているかを入院と入院外に区分して経年変化を追ってみる。入院に関しては医療費の 3 要素だけでは実態がつかみにくいので、追加の要

素を分析し社会的な影響を考えたうえで、順次情報を公開していったらいいのではないか。疾患別データも必要であり、どの疾患が伸びているかを細かく見ていかないといけない。本当に継続的に分析していくのであれば解析のための人員と組織、予算措置が必要である。

- 【事務局】 来年度に予算計上していないので、必要最小限の有効なデータだけをあまりお金を使わずに実施できればと思っている。
- 【部会長】 最終的にデータを公表するには正式な組織が必要だが、まずは専門家から意見を聞いて将来的にどのように検討していくかを話し合う場が必要ではないか。
- 【部会長】 提言については、最終修正してから運営協議会に報告するが、最終的な文言の修正は事務局と部会長と副部会長で調整することをご了承いただきたい。